



平成 28 年 5 月 9 日

各 位

会 社 名 三菱食品株式会社
代表者名 代表取締役 井上 彪
(コード：7451 東証第一部)
問合せ先 IR室長 山川 幸樹
(TEL. 03-3767-5204)

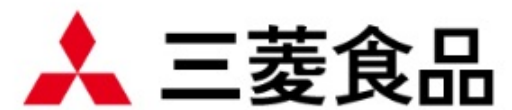
経営方針策定に関するお知らせ

当社は、2020 年度を最終年度とする 5 カ年の経営方針を策定いたしましたので、お知らせいたします。
なお、詳細につきましては、別添資料をご参照ください。

以 上

三菱食品 経営方針2020

2016年5月9日

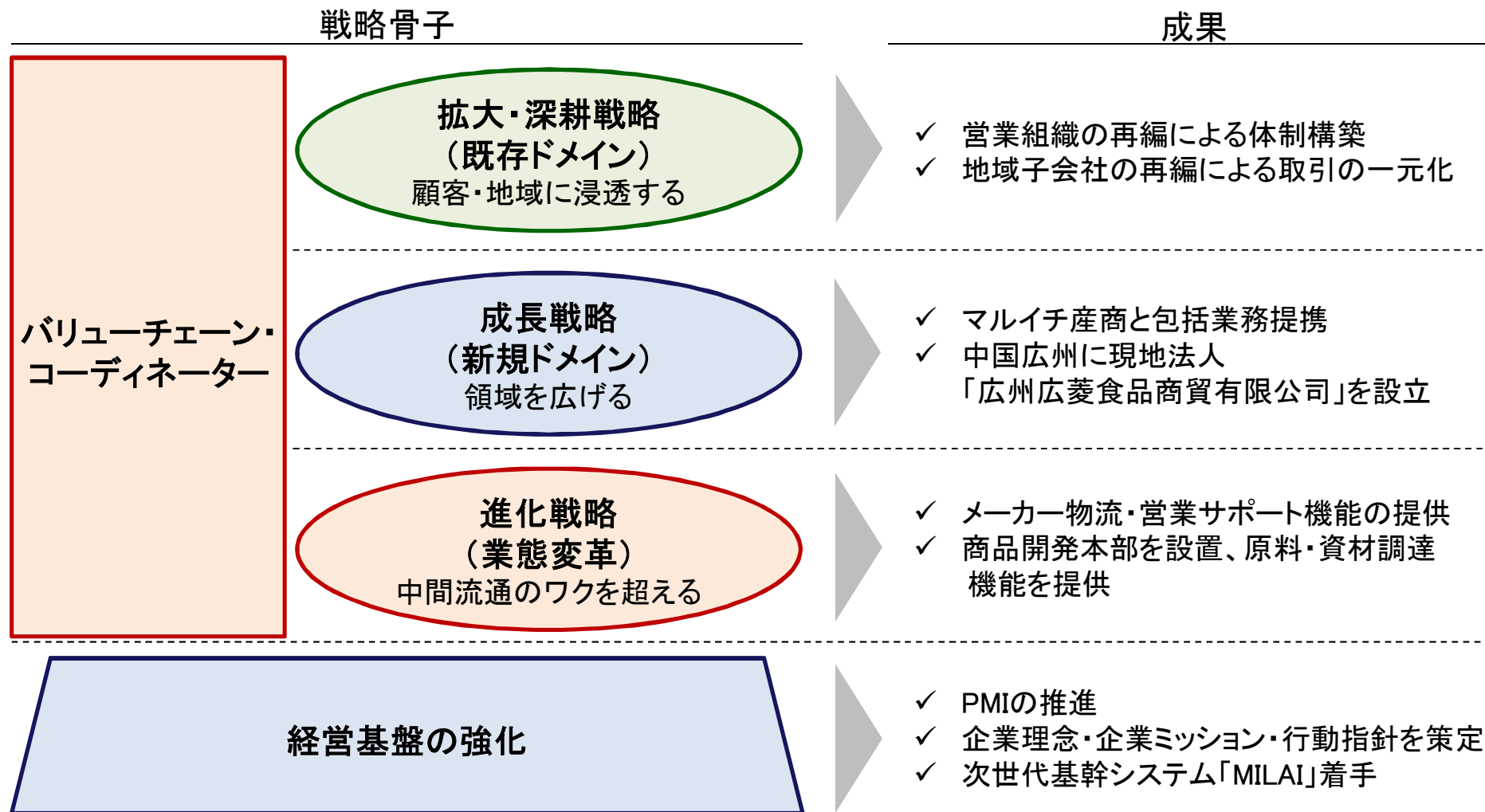


目次

- ・中期経営計画2015総括
- ・外部環境認識
- ・経営方針2020で目指す姿
- ・総合食品商社として
- ・三菱商事グループとして
- ・「中核」を目指す企業として
- ・定量目標

中期経営計画2015総括＜定性面＞

3つの戦略について効果が出つつあると共に、経営基盤については旧会社の統合や新生三菱食品の文化形成を含め、着実に強化がなされた。



中期経営計画2015総括＜定量面＞

経営基盤強化を中心とした各種施策の結果、2015年度に経営統合後初の増収増益を達成し、次のステージに向けた準備が整った。

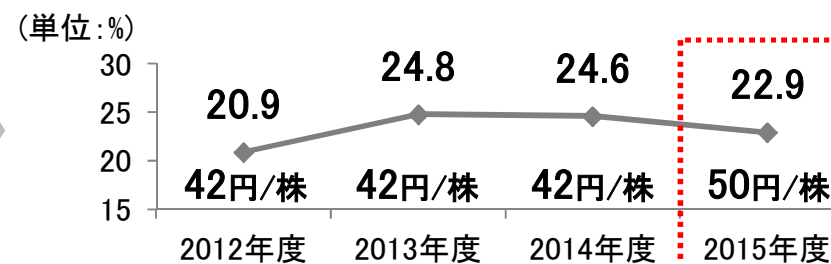
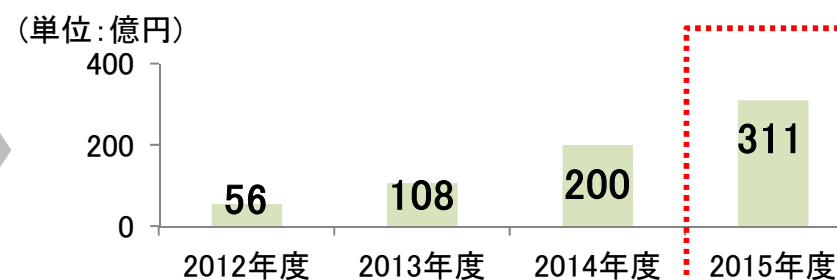
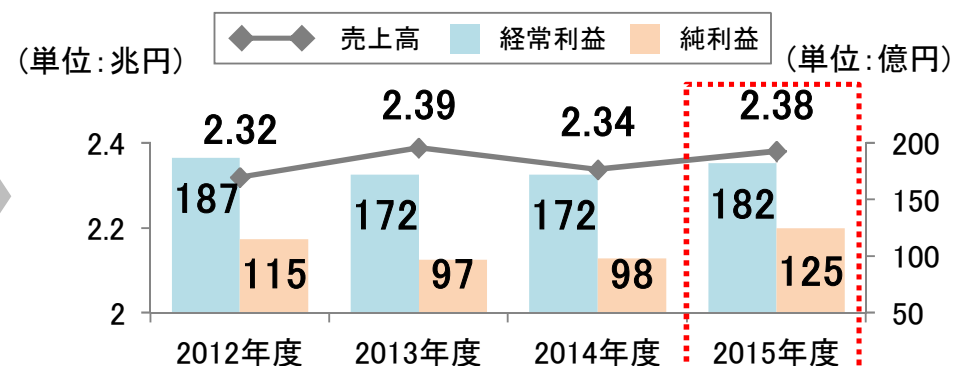
目標

売上高 3兆円
 経常利益 300億円
 純利益 170億円

累積投資額 400億円

配当性向 20%

実績



外部環境認識

顧客やパートナーを取り巻く環境は目まぐるしく変化しており、テクノロジーの進展も含め、今後更なる変化の加速が想定される。

顧客 (生活者)	パートナー (原料生産・製造・物流・小売)	テクノロジー
<ul style="list-style-type: none">✓ 人口減少、高齢化、世帯構造変化、外国人の増加に伴う食ニーズの多様化✓ 家庭内調理の減少による中食・配食の拡大✓ 安心・安全に対する意識の高まり	<ul style="list-style-type: none">✓ 人手不足の深刻化による物流費・人件費の上昇✓ グローバルな需要変動による原料乱高下✓ TPP発効に伴う輸入品の増加	<ul style="list-style-type: none">✓ 物流テクノロジーの進展によるIT化・機械化投資の重要性の増大✓ 解析技術の進展によるデータ活用の普及✓ eコマース形態(B2C、C2C)の多様化

変化を想定し、対応する能力を高め、“日本の食を支える”ことが求められている

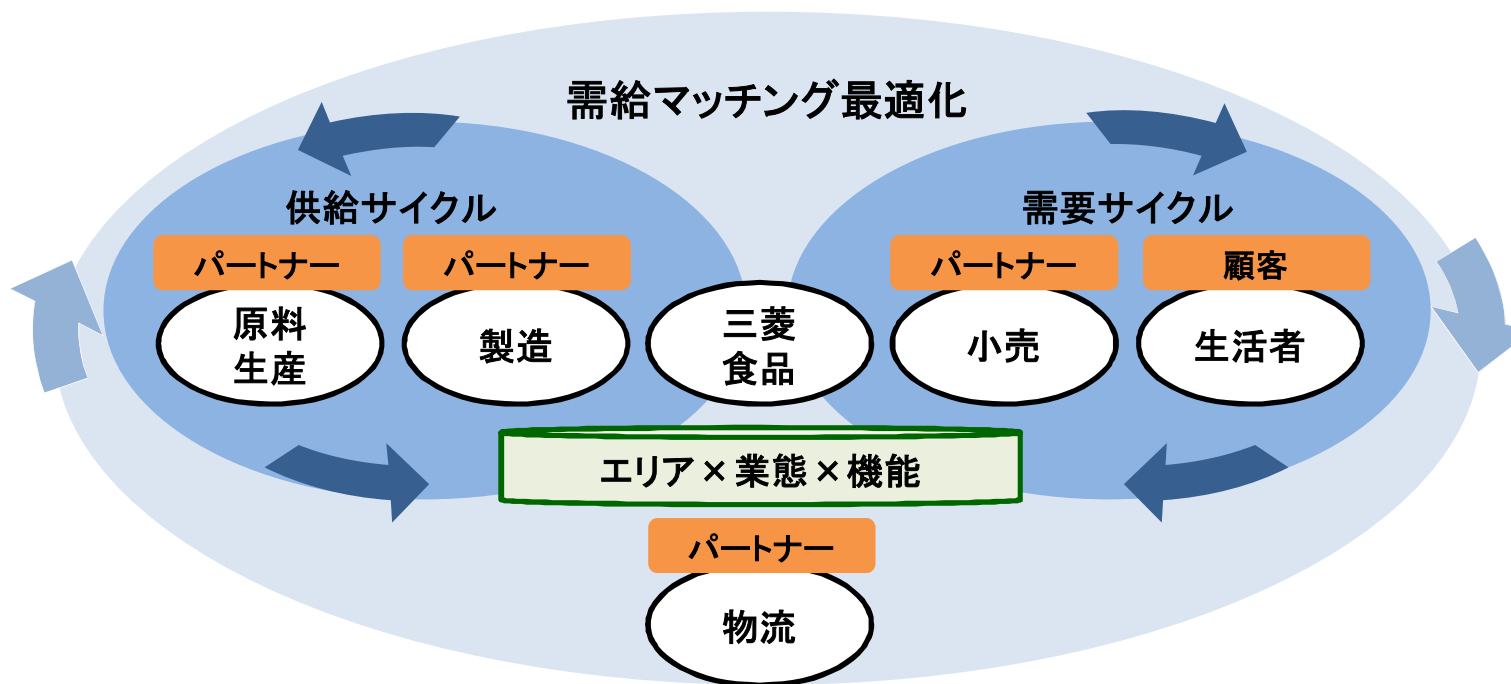
経営方針2020で目指す姿

企業ミッション

「中間」から「中核」へ。食と暮らしの明日を創造する。

経営方針2020で
目指す姿

“より良い”を積み重ねて、日本の食を支える



3つのアプローチ

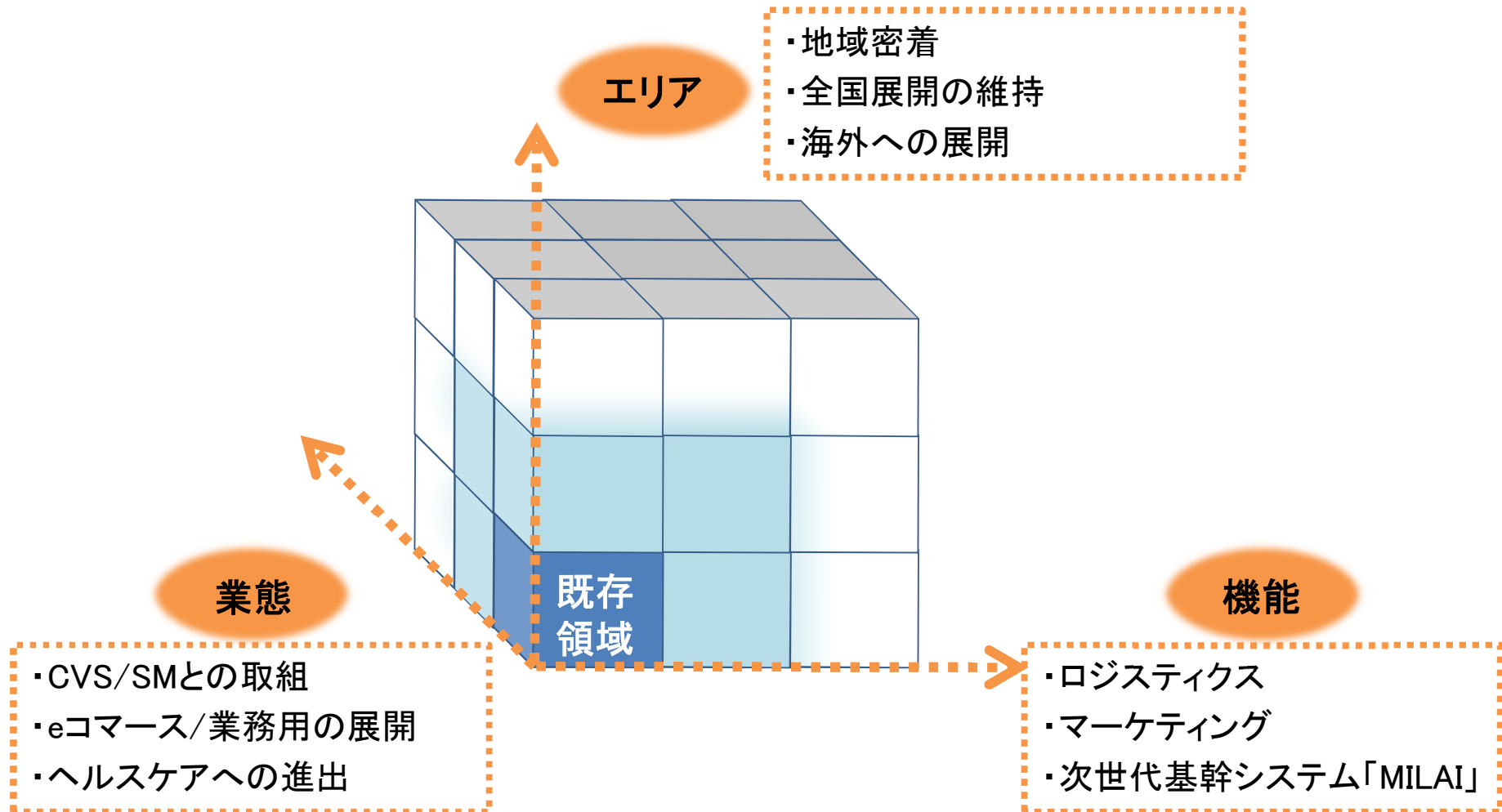
①総合食品商社
として

②三菱商事グループ
として

③「中核」を目指す
企業として

①総合食品会社として

従来の食品卸の枠を超え、エリア・業態・機能の面で多様性を有する
「総合食品会社」となる。



① 総合食品商社としての機能強化「MILAI」

オープンプラットフォームとしての「MILAI」を通じ、
各パートナーとバーチャルSPAを形成し、「流通の最適化」を推進する。

物流の最適化

- 重点投資項目** → モノの流れ
- ✓ AIを活用した需給コントロール機能
 - ✓ テクノロジーを駆使した物流機能

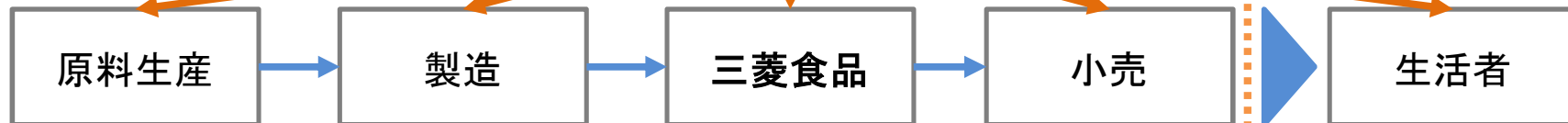
次世代基幹システム
(2016年度より順次稼働)



マーケティングの高度化

- 重点投資項目** → 情報の流れ
- ✓ ビッグデータ解析
 - ✓ 外部システム連携

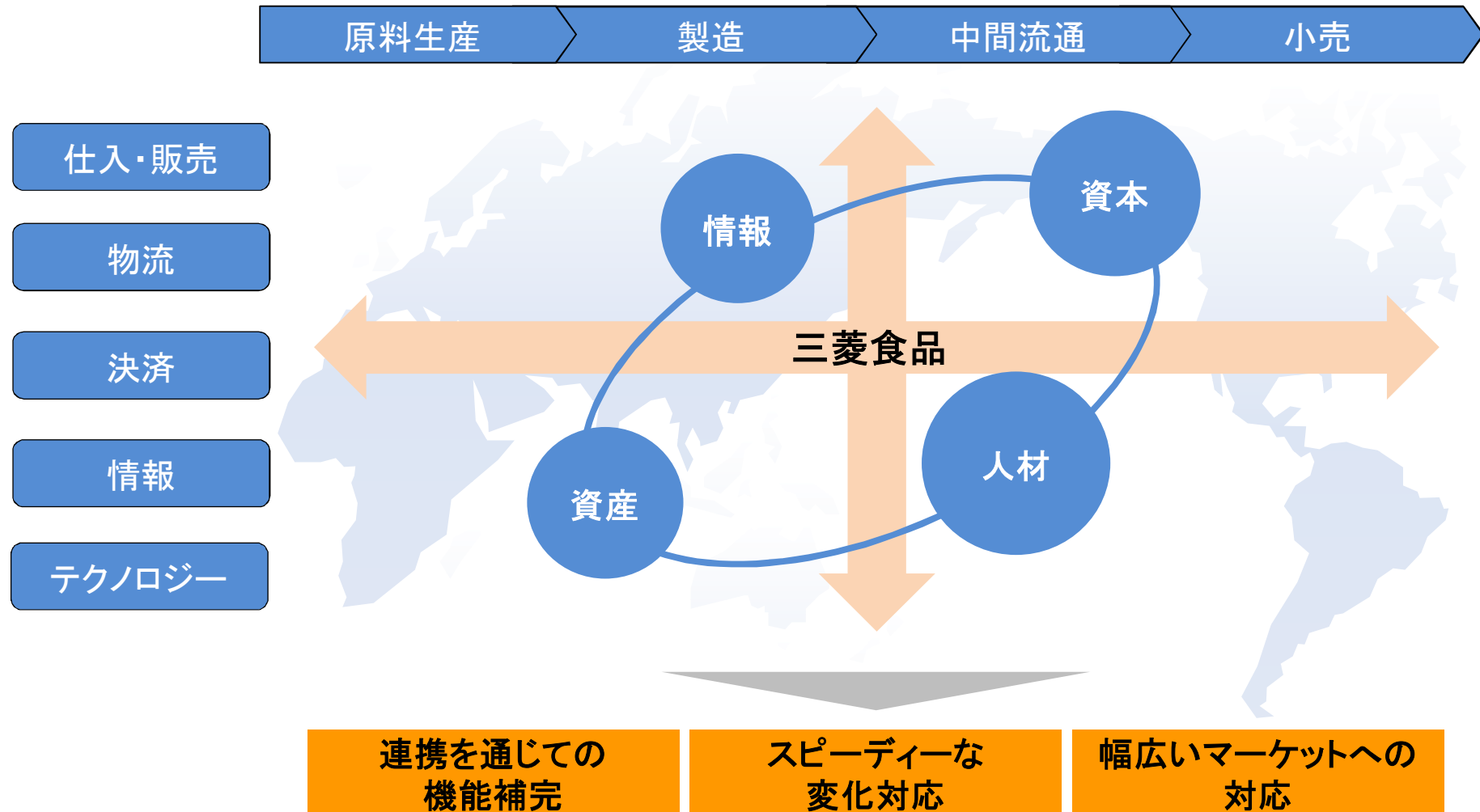
バーチャルSPAの形成



- | | | | | |
|------------|---------|-----------|----------|----------|
| ✓ トレーサビリティ | ✓ 製造計画 | ✓ パートナー連携 | ✓ 販売計画 | ✓ 鮮度感 |
| ✓ 産地情報伝達 | ✓ 商品開発 | ✓ 在庫回転率 | ✓ 購入機会提供 | ✓ 適正価値購入 |
| ✓ 資源の有効活用 | ✓ 原材料調達 | ✓ 活用範囲拡大 | ✓ 豊かな品揃え | ✓ 商品発見 |

②三菱商事グループとして

自社の力に加え、三菱商事グループを巻き込み、総力を結集することで、機能の更なる拡充・スピーディーな対応を生み出し、“より良い”食品流通を実現する。



③「中核」を目指す企業として

“より良い”食品流通の実現に向け、
5つの行動指針に基づいた取組を継続的に推し進める。

わが社行動指針

経営方針2020で取組むこと

自覚と誇り	日本の食文化への貢献 ⇒ CSV (共通価値の創造)
革新・チャレンジする精神	食品流通のムリ・ムダ・ムラ是正 ⇒ 旧慣習からの脱却
自由で風通しの良い社風	品位と品性ある活動 ⇒ コンプライアンス
共創・共生	女性活躍推進・働き方改革 ⇒ ダイバーシティ
真のプロフェッショナルリズム	食流通のマルチタレント育成 ⇒ 人材開発

定量目標

機能強化・事業規模拡大に向けた投資を実行し、
経常利益率1%を早期に実現するとともに適切な株主還元を実施する。

経営方針2020

経常利益率1%を
早期に実現

投資

機能強化に向けた投資により更なる
付加価値を提供

- ✓ 物流投資
- ✓ マーケティング投資
- ✓ システム投資

新規事業への投資による事業規模拡大

配当

年間50円を下限とした安定配当を継続

中長期目標

売上高3兆円
経常利益300億円



(注) 本資料に開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基くもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、及び将来の業績を保証するものではありません。また、これらの情報が、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報および資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。